令和元年度　国際交流イベント事業報告

令和元年９月～１１月開催

松原市

2019 年 11 月 20 日

作成者:市民協働課　NPO・**国際交流係**

令和元年度　国際交流イベント
事業報告

令和元年９月～１１月開催

実施主旨

平成 26 年 9 月 11 日に台北市文山区と友好交流協定を締結して、今年で５周年を迎えます。その記念として、継続して交流している事業や台北市文山区を含む台湾の観光案内などの周知を行いました。また、市民（青少年）による参加型の啓発や主体的な事業展開を行い、国際感覚を身に着けた人材育成につなげるため３つの事業を行いました。

【主な内容】

1　9/6（金）～11（水）台北市文山区友好交流協定締結 5 周年記念パネル展

市民ロビーにて　5 年間の交流の様子の紹介及び観光情報の発信

2　10/19（土）13 時開場　13 時 30 分上映　映画上映「KANO　1931 海の向こうの甲子園」

文化会館にて（整理券配布　文化施設３館、役所ほか）

3　11/9（土）～10（日）　まつばらマルシェ　行政ブースで台湾への市民の想いを募る（400）

【協働者】

台北駐大阪経済文化弁事処

台湾観光協会大阪事務所

台湾貿易センター

教育委員会事務局教育推進課

松原市立中学校　７校

まつばらゆぅす

郭　静儀さん（台湾出身・登録通訳ボランティア）

一般財団法人松原市文化情報振興事業団（事業受託者）

【まつばらゆぅす】

松原市が実施した国際交流事業（平成２７年から実施の台北もしくはメルボルン渡航）に参加したメンバー（１２から２４歳まで）が、帰国後も松原にいながら国際交流を感じられるイベントをやりたい!!と集まった、有志の会。

登録者１２名（令和元年１１月１５日現在）

実施内容

１　9/6（金）～11（水）台北市文山区友好交流協定締結 5 周年記念パネル展

市民ロビーにて　9 時～17 時 30 分

台北市文山区との双方向の 5 年間の交流について写真パネルやコラージュボードで紹介しました。コラージュボードは中学生海外交流事業に参加した中学生が一人１枚ずつ感想や心に残ったことなどを写真やイラストを交えて作成したものです。

【訪台交流と来日交流について】

訪台交流については、協定の締結翌年から毎年、２泊３日で中学生と教員、教育委員会事務局が台北市に訪問しています。１年目は１６人、２年目以降は２８人の中学生が、文山区にある私立静心（せいしん）中学の生徒と交流しホームステイ（２年間）、その後は天母（てんむ）国民中学や龍山（りゅうざん）国民中学の生徒と互いのまちの紹介やワークショップなどを行っています。

また、来日交流としては、本市の市制６０周年記念式典において私立静心中学の生徒が吹奏楽の演奏を披露してくれ、その後は、中正国民中学の生徒５６人が本市の中学生と交流、雲林県莿桐郷（しとうきょう）公所（役所）から農産物に関する視察、台日文化交流団（台湾の高齢者大学）と元希者クラブなどとの交流、台湾の大学生による市長表敬など、毎年、台北駐大阪経済文化弁事処のご協力のもと、本市において交流を行っています。

展示物：締結時の写真・文山区とは・台北での交流の様子（4 回分）・松原市での交流の様子（5 回分）・参加者による報告コラージュボード（100 枚）・台湾雑貨・花布（8 枚）・台湾観光ポスター

配布物：台湾観光協会から提供していただいた冊子（５種類）

来場者：４００人

２　10/19（土）13 時開場　13 時 30 分上映　映画上映「KANO　1931 海の向こうの甲子園」

文化会館にて

この映画は、台北駐大阪経済文化弁事処より紹介されたもので、１９３１年の日本統治下時代に一度も勝ったことがない弱小チームが、台湾代表として甲子園の決勝に出場した事実を元にした作品です（２０１４年公開）。上映を決めたのは、今は親日といわれる台湾について、市民が歴史的な事実に基づいて考えるきっかけになればと、まつばらゆぅすと話し合ったものです。当日は、まつばらゆぅすのメンバーによる前説を行い、交流状況を紹介するとともに、台北渡航の感想や映画の企画経過などを観客に伝えました。

【ストーリー】

１９３１年、日本統治時代の台湾から甲子園に出場し、決勝まで勝ち進んだチームがある。嘉義農林学校野球部。KANO。それまで一勝もしたことのなかった弱小チームが甲子園を目指し、大人たちや他校の嘲笑をよそに予選で快進撃を始める。その陰には、かつて名門・松山商業を監督して率いた近藤兵太郎（永瀬正敏）の特訓があった。守備に長けた日本人、打撃力のある台湾人（漢人）（※注１）、俊足の台湾原住民（※注２）。それぞれの強みを生かし、分け隔てない指導で育てられた彼らは、ついに甲子園への切符を手にする。（一部抜粋）

※注１中国大陸から移住した漢民族の子孫　※注２台湾の先住民族の正式な呼称

内　容：台湾編・甲子園編（計１８５分）※休憩あり

整理券：９月９日から文化施設３館及び市民協働課にて配布　６５０枚

配布物：台湾観光協会から提供していただいた冊子（５種類）

入場者：２４４人

ゆぅすメンバー：あやか・りな・たいよう・あまね・つぐみ

セーフコミュニティ活動報告会において行った映画上映の PR（ゆぅすと澤井市長、李領事）

３　11/9（土）10時～16時　11/10（日）10時～15時　まつばらマルシェ

体育館内のブースにて（11/8搬入・11/9　8時30分～準備・11/10　17時30分まで片づけ）

台北市文山区と協定を締結してからこの間、松原市と台北市とが交流している認識が市内に徐々に広まっており、市民の台湾に対する親近感や愛着というものを、事務局として非常に感じていたため、実際に市民の声を集める機会を設けることにしました。まつばらマルシェは不特定多数の市民が来場し、さまざまな世代や地域の人が集まるため、絶好の機会ととらえ、今回の行政ブースの実施に至ったものです。

ブースでは、まつばらゆぅすと台湾出身の通訳ボランティアに協力してもらい、台湾へのメッセージ（渡航経験があれば感想、応援、行ってみたいなど）を一人1枚記入してもらうことにしました。その際、台湾の観光冊子を手渡したり、渡航したことのある台湾の各地をシールでポスターにマーキングしてもらうなど、ゆぅすのメンバーが、直接市民と会話し触れ合えるように工夫しました。

さらに、メッセージを書いてくれた人はガラガラ抽選（※注１）ができ、景品は桜ロゼットや、パイナップルケーキなどにしました。ガラガラ抽選器を回す音、当たりの鐘の音などは来場者の関心を集め集客でき、景品を渡すことで満足度を高めるブース展開を行いました。また、1日3度、台湾茶四天王の一つと言われる「文山包種茶」の試飲会を行ったり、台湾観光PRキャラクター「オーベア」を登場させるなど、単に周知・啓発ブースとしてではなく、より台湾を身近に感じ愛着を持ち、台湾ファンを増やすように取り組みました。結果、本市の国際交流事業を広く周知広報できる機会となりました。

※注１市内企業「渡辺徽章株式会社」製作のガラガラ抽選器、くす玉、桜ロゼットは日本独自の文化であり、製作できるのは国内で２社のみとなっている。

内　容：「我愛台北市文山区　私たちの想いよ、とどけ！」と称し行政ブースにおいて台湾へのメッセージを書いてもらいガラガラ抽選（目標400）

配布物：台湾観光冊子（４～７種類）・ビニール袋

景　品：桜ロゼット／パイナップルケーキ／マッキーLINEスタンプシール／クリアファイル／NPO法人障害者支援ねっとまつばらのクッキー

ゆぅすメンバー：

９日　あやか・りな・あまね・つぐみ

１０日　まこ・りさ・きょうへい・あこ・りな・あまね

周知・啓発について

9 月号広報まつばらへの掲載

映画ちらし（1,670 枚）・ポスター（10 枚）配布

セーフコミュニティ活動報告会にてちらし配布及び観光案内と映画周知ブースを展開

マルシェの折り込みチラシ

台湾へのメッセージについて

マルシェにて回収したメッセージについて、内容は渡航経験があれば「感想」、「台湾への応援・LOVE」、「行ってみたい」などおおまかに 3 種類に別けて集計をしました。（総数 394 件）これらは、12 月の中学生海外交流事業において、この内から一部抜粋し、中学生から交流先の学校や文山区公所などへ手渡すことで、松原市民の想いを届けてもらいます。

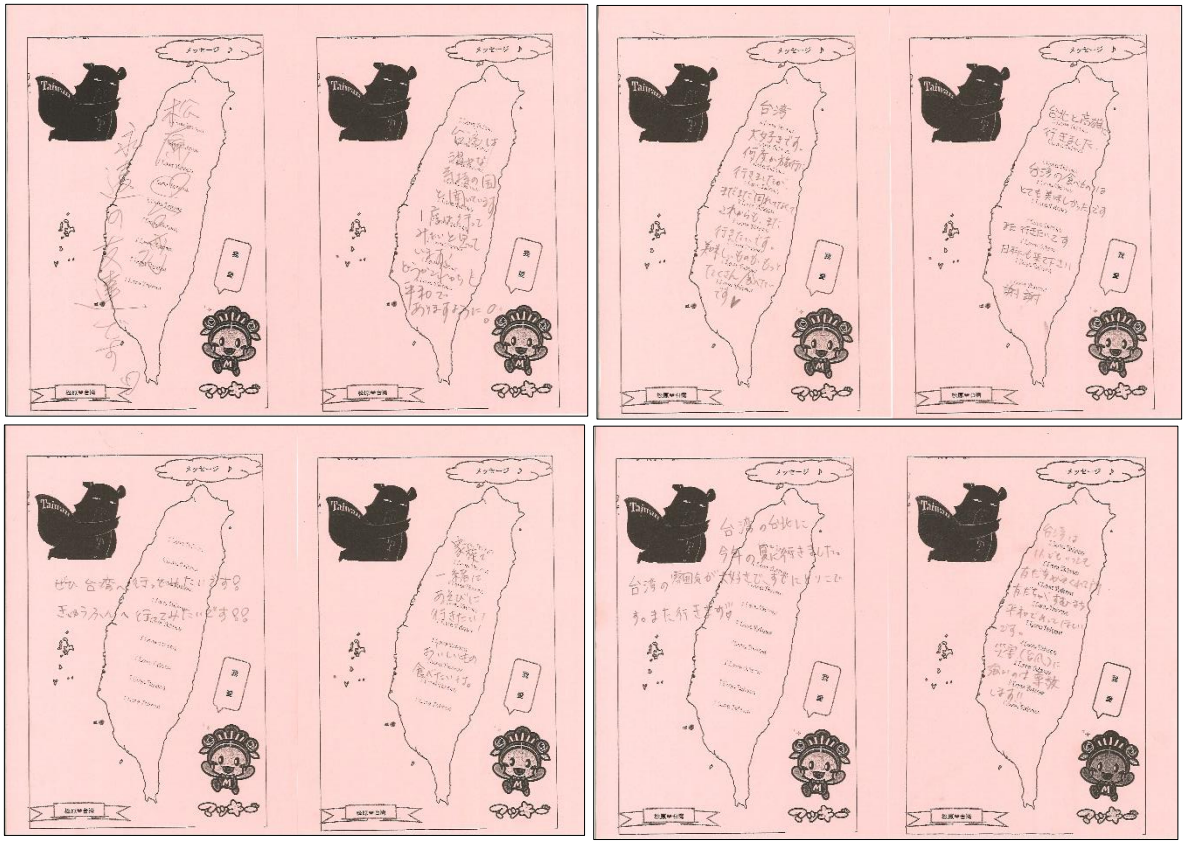
また、機会をみて、台北駐大阪経済文化弁事処の李世丙処長にお届けします。

【集計結果】

「行ったことがある」に関するものが 66 件　１６．８％

「台湾応援・LOVE」に関するものが 103 件　２６．１％

「行ってみたい」に関するものが 225 件　５７．１％



ふりかえりとして

国際交流の担当係ができて６年目となる今年、５周年記念として３つの事業を行えたことが、事務局としては成功の実感と達成感を得ることができました。思い返せば、台北駐大阪経済文化弁事処に便宜供与の依頼で伺った際、出していただいた台湾茶のおいしさに感動したことが台湾との出会いでした。香りと味に驚き、しかも薄い緑色なのに烏龍茶だと教えていただいて２度驚いたことは今でも忘れられません。

その後実際に台北市に渡航し文山区とめでたく友好交流協定を締結することができました。この過程では、セーフコミュニティの取組とそれに関わる前任からの引継ぎ、審査員の白璐（パイ　ル）先生らの多大な働きかけや想いがありました。それが形となった締結日のその場にいた皆様の喜びの顔も忘れることができません。

そのほかにも、国慶節や春節祭などで出会った大勢の人の想いと力に後押ししていただき作り上げることができた中学生海外交流事業は継続実施できており、そのことを広く報告、周知する今年の記念イベントは、本事業の集大成といえるものとなりました。

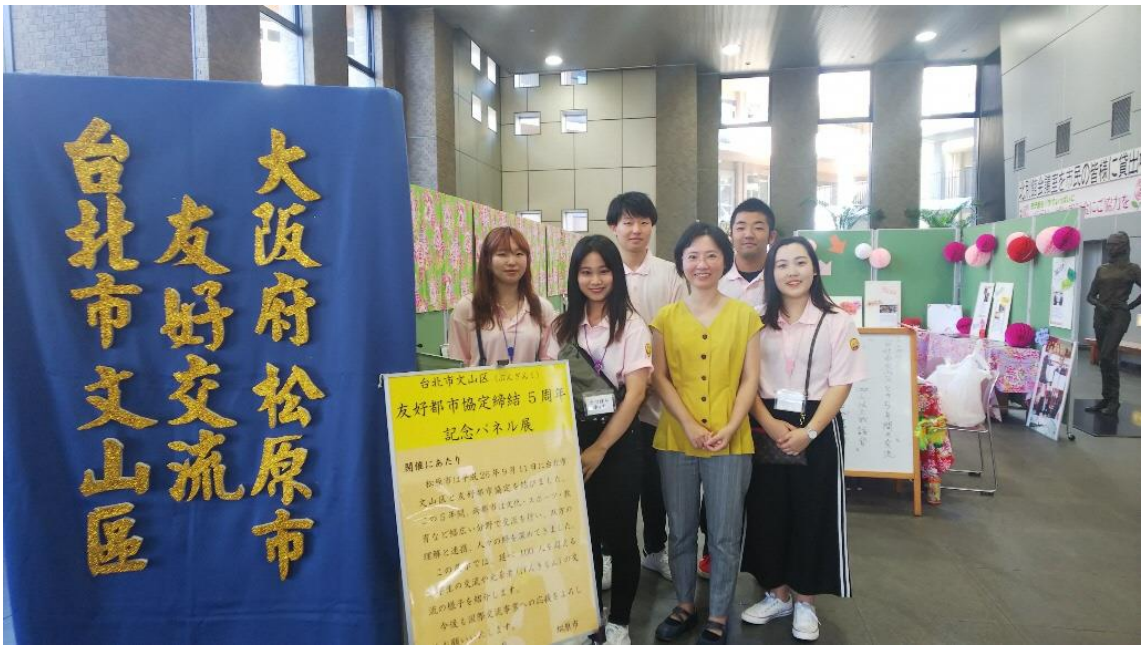
事務局としては、今年は、本事業を振り返るとともに節目と捉え、また、松原市第５次総合計画の初年度でもあることから、次の５年、１０年後に向けた事業の目的や手法を考える必要性があると考えています。そこで、この間参加してくれた中学生や高校生に協力を得る手法として生まれたのが、松原市若者グループ「まつばらゆぅす」です。

「まつばらゆぅす」は、本市が実施した国際交流事業（台北かメルボルン渡航）に参加したメンバー（１２から２５歳）が、帰国後も、松原にいながら、国際交流を感じられるイベントをやりたい‼と、集まった有志の会です。本年４月から７月まで企画と準備をし、８月から始動しました。現在１２名のメンバーがおり、グループ名も多言語で事業展開する際、わかりやすくて親しみやすいという理由からメンバーたち自身で決めました。

ゆぅすのメンバーはこの事業にも毎回協力してくれ、本市の国際交流事業を進めるにあたり、心強い存在となっています。若者の視点とアイデア、情報発信力、フットワークの軽さが強みで、この５周年記念イベントにも反映されていますが、今後の事業展開にも引き続き主体的な関わりをもってほしいと思っています。

グループ活動の時間以外でも、彼らは各個人が出会ってきた外国の友人との連絡を今も継続しており、友人のことを離れていても遠い親戚のように思っているとのことで、災害時やイベント時などさまざまなタイミングで情報発信、共有をしています。この若者たちは国際交流事業の大勢の味方、応援してくれる市民の代表です。友好交流都市ができて５周年と、後発である本市は、後発ならではの良さやオリジナリティを生み出すために彼らの力がかかせないものになることは間違いありません。

次代を担う彼らの力を本市の強みとし、またその次の世代へつなぐ足がかりになっていけば、人と人の顔が見える関係づくりも継続でき、同じ目的に向かって役割分担する協働の仕組みを国際交流事業においても実現することができます。

今後の事業の取組は、彼らとともに本市の魅力のひとつとして、また、３０年後も記憶に残る持続可能なものにするため、応援してくれる市民を増やすべく進めていきます。

最後に、台北駐大阪経済文化弁事処、台湾観光協会大阪事務所、台湾貿易センターの皆様に感謝申し上げるとともに、今後一層、本市の国際交流事業、地域国際化支援事業を充実・継続してまいります。